

平成26年度 自動車リサイクル士制度 総括

平成26年度認定講習会、全日程終了

平成27年2月3日～4日に開催された四国地区(中国・四国ブロック)の認定講習会をもって、平成26年度に予定されていた自動車リサイクル士制度認定講習会の全日程が終了しました。ご協力くださった皆様にご心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。平成26年度の総括として、開催実績や各会場アンケートの結果を以下に掲載します。

【平成26年度開催実績】

各ブロック講習会					
	ブロック	場所	日程	参加者総数	
					受講者数
1	東北	宮城県 仙台市	平成26年 7月23日～24日	85名	63名
2	九州	福岡県 福岡市	平成26年 8月22日～23日	67名	47名
3	北海道	北海道 札幌市	平成26年 9月11日～12日	44名	32名
4	近畿	大阪府 大阪市	平成26年 10月28日～29日	44名	24名
5	沖縄	沖縄県 うるま市	平成26年 11月6日～7日	42名	25名
6	中部・北陸	愛知県 名古屋市	平成26年 11月26日～27日	62名	39名
7	関東	東京都 文京区	平成26年 12月10日～11日	77名	49名
8	中国・四国 (中国地区)	広島県 東広島市	平成27年 1月20日～21日	32名	20名
9	中国・四国 (四国地区)	香川県 高松市	平成27年 2月3日～4日	20名	11名
総 計				473名	310名
講師養成講習会 (試験なし)					
	種別	場所	日程	参加者総数	
					受講者数
1	講師養成 講習会	東京都 港区	平成26年 6月19日	58名	35名

目次

巻頭言 1
トピックス	
平成26年度 自動車リサイクル士制度 総括 1-2
産構審・中環審合同会議 3
宮城県組合新春講演会 4
近畿ブロック会議 4
鉄スクラップ最新情報 5
行事予定・お知らせ 6
編集後記 6

巻頭言

3月11日で震災から4年目。多くを失いましたが、多くを様々な方々からいただきました。震災後に全国の多くの皆様にご集まっていたいただいたAヤードに先日津波対策避難タワーが完成されました。高さ約10メートルの鉄骨造りで、約300人を収容することができます。震災の教訓で雨風をしのぐことができ、トイレ、非常食など備えられています。また3月14日から18日には仙台市内にて国際防災会議が開催されます。多くの方々に仙台へ来ていただけます。もう一度振り返り、私たちが経験をしたことを多くの皆様に伝える機会になり、各地で防災について話し合いがされ、様々な活動に繋がれば幸いです。

(広報部会 平地 健)

【平成26年度各会場アンケート結果】

以下は各会場でとったアンケートにおける自由記述欄より一部抜粋したものです。

- 講義内容・テキスト共にわかりやすかった。知識の整理・再確認に役立った。
- 現物（エアバッグ等）を見せて頂ければ、より理解・印象が深く・強くなると思います。
- リサイクル士の資格を持った者が事業場にいなければ解体行為が出来ない等、国家資格と同等の意味合い重要性を持たせれば違法業者を減少させる事が出来るのではないかと考える。
- テキストは、必要とする内容がよくまとめられており、わかりやすい。（学問を学ぶための）大学の講義なのか、わからないような講義があった。ただ読むだけならば講義は不要！！資格認定のための講義であれば、重点を定め、実務上問題となっている事項等も紹介しつつ法令等の根拠も教えるべきである。今後の本認定制度の充実及び実務への反映のため、あえて苦言を書かせて頂きました。
- とても意義のある講習会でした。講師の方の説明も丁寧でよく理解できました。今後受講者が増え作業者が法律を遵守し使用済自動車に適正処理・リサイクルできればと感じました。
- 各項目でのレクチャーの質がバラバラで、分かりにくいインストラクターのスキルアップを求めます。
- 質問する時間があってもいいのではないのでしょうか。
- 自動車リサイクルの実務に係る具体的な内容を学ぶことができ、担当行政職員として有益な2日間でした。

【リサイクル技術部会長コメント】

リサイクル技術部会の三木部会長より、平成26年度講習会を終えてのコメントをいただきました。

「平成26年度の自動車リサイクル士制度認定講習会を終えて」

平成19年度から開催されていた「全国地域団体講習会」を発展させ、自り法の安定的運用と適正処理促進のため、実務者・管理者といった自動車リサイクル事業者の個々の立場に応じた資格制度「自動車リサイクル士制度」が平成25年に創設され、「自動車リサイクル士制度認定講習会」が開催されて約2年となりました。

平成26年度の認定講習会は全国8ブロック9箇所で開催し、合計310名の受講者の実績でもって終えることができました。

リサイクル技術部会は自り士制度の構築と講習会の運営全般を担当して参りました。その際、経済産業省・環境省・日本自動車工業会・自動車リサイクル促進センター・自動車再資源化協力機構はじめ、多くの関係機関のご支援、ブロック・講師・インストラクターらELV機構関係者の物心両面にわたるご協力をいただきました。

2年間の自り士認定講習会開催にあたり、部会での活発な議論、関係者機関からのご助言を経て、講習会全般の改善や講師のスキルアップに努め、この2年間自動車リサイクル実務に関わる講習会として一定の実績を残すことができました。関係者の皆様にリサイクル技術部会を代表して厚く御礼申し上げます。

自り士制度は平成27年度に3年目を迎えますが、ELV機構が目指している自動車リサイクル業界における認定講習会への目標はまだまだ道半ばです。平成27年度は自り士更新講習を迎え、課題は山積み、制度への認知と講習会の受講に繋がる諸施策をさらに推し進めて参らねばなりません。ご負担をおかけし、誠に恐れ入りますが今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構
リサイクル技術部会 部会長 三木 康弘

産構審・中環審 第37回 合同会議が開催

平成27年2月17日に産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルワーキンググループ・中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会による第37回合同会議が開催されました。

今回の議題は、● 自動車リサイクル法の評価・検討に当たっての論点整理について
● これまでに出了された質問・意見への回答について です。

自動車リサイクル制度の見直しに向けた主な論点整理については、3つの観点 ① 自動車における3Rの推進・質の向上、② 自動車リサイクル制度の安定的かつ効率的な運用、③ 今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿を中心に、自動車製造業者、引取業者、解体業者、破砕業者、地方公共団体、指定法人等の幅広い関係者からヒアリングを行い、その際に関係者から示された意見を踏まえて論点が整理されました。

1. 自動車における3Rの推進・質の向上

① 2R（リデュース・リユース）の推進

リサイクルよりも優先順位の高い2Rの取組強化やリサイクルの質の向上を推進していくことが必要である。使用済自動車の発生抑制やリユース・リビルド部品の利用などの2Rの取組をどの様に進めることが出来るか検討。

② リサイクルの質の向上

現状の実施状況を踏まえつつ、ユーザー負担に配慮しながら進めることが出来るか検討。

③ 次世代車／素材の多様化への対応

次世代自動車については、使用済自動車としての排出も拡大してきており、レアメタルの回収等のより高度なりサイクルや使用される素材の多様化への対応が求められる。環境配慮設計の取組状況を踏まえながら、普及状況等の変化に応じてどの様な対応をするべきか検討。

2. 自動車リサイクル制度の安定かつ効率的な運用

① 3Rの進展に向けたユーザー理解の促進

② 特定再資源化預託金等の用途を含むリサイクル全体の社会的コストの低減

③ 引取業の在り方

使用済自動車とするか中古車とするかの判断が適切に行われる為に、ユーザーに対して十分な情報提供を行い、自動車リサイクルシステムの入口として適切に機能することが求められるが、自動車リサイクルにおける引取業の在り方について検討が必要。

④ 不法投棄・不適正処理への対応の強化

不法投棄・不適正保管や許可・登録業者の不適正処理、ヤードにおける無許可解体等の事例が散見されており、自治体の指導を通じた制度の安定化や優良事業者の育成に向けた方策について検討。

⑤ 使用済自動車等の確実かつ適正な処理の推進

3. 今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿

① 自動車リサイクル制度の持続的かつ自律的な発展

② 自動車リサイクルの国際展開

上記の内容を中心に質問・意見交換がされました。次回からは、個別の論点をさらに深めていくとの事でした。当日の次第や資料など詳しくは、以下の経済産業省ホームページをご覧ください。

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki_recycle/car_wg/037_haifu.html



宮城県組合、新春講演会を開催



宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合は、2月6日(金)仙台市内において、宮城県中小企業団体中央会主催にて、新春講演会を開催しました。講師として株式会社大八商會(東京都)の代表取締役である小宮山敬仁氏(写真右)をお招きし、「解体業者が生き残るための行動会議」と題してディスカッション形式にて楽しい会議となりました。昨今の新車販売台数の落ち込み、少子高齢化、さらには若者の車離れと我々解体業者にはますます厳しい状況が続く中、「あなたの会社の武器は？」の問いに対し回答が各社から様々な回答がありました。「社長の人柄」、「スタッフ一同笑顔で対応」、「専門特化」等々。

また、組合員各社や大八商會様のHPを見ながら、お客様に対して何をアピールしているのかを明確に解説をしていただきました。お客様に安心して解体処理を任せられる表記。例えば、スタッフの顔写真、引き取りから抹消(重量税還付までの流れ)、価格、また、解体される“愛車”は具体的にどうなるのかを親切に解説してありました。「電話してみようかな？」と思わせるHPです。フリーダイヤルも効果的との事。当組合員のHPもよく出来ているが、「何を訴えたいのか？」との問いもあり、「HPを活用してみては！」との事でした。

お客様に対して出来ることを実践していく事こそが、生き残りに繋がる行動と改めて実感する事が出来ました。同業他社様の具体的な取り組みは特に参考になりました。やるかやらないかは各社の判断ですが行動をおこした先に見えるものは絶対にあるはずです。行動あるのみ！

(宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合 専務理事 有限会社鈴和商会 鈴木 力)

近畿ブロック、合同新年会を開催



平成27年2月14日、大阪府大阪市にて「第3回近畿ブロック合同新年会」が開催されました。

講演会の部と懇親会の部の2部構成で、近畿ブロック所属の5団体(大阪自動車リサイクル協同組合・滋賀自動車リサイクル協同組合・播磨自動車解体組合・兵庫県自動車リサイクル処理工業会・奈良県ELVリサイクル協同組合)より、会員約40名が参加しました。

まず、大阪自動車リサイクル協同組合の埜村岳史理事長による開会挨拶があり、「厳しい市場に苦しんでいる現状ではあるが、こうい

うときだからこそ、お互いに切磋琢磨して業界の健全な発展のために一致団結していかなければならない。そのためにも、こういった機会を通じて皆様と親睦を深めていきたい。」と述べられました。

講演会の部では、ランチェスター経営大阪代表の井上秀之様を講師として呼びし、『儲かる経営のやり方～ランチェスター弱者必勝の経営戦略～』というテーマで講演会を行いました。続いて懇親会の部では、高野近畿ブロック長によるELV機構活動報告がありました。

この合同新年会を通じて参加者同士が交流を図り、ブロック内のつながりを深める有意義なものとなりました。

■ 2月第4週(24日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供 / 日刊市況通信社]



2月24日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	23,500 ~ 24,500	値下がり
	南関東	23,500 ~ 24,500	値下がり
名古屋		24,000 ~ 24,500	弱含み様子見
関西	大阪	24,500 ~ 25,000	弱含み様子見
	姫路	23,000 ~ 23,500	弱含み様子見

国内市場、相場の「東高西低」解消へ 東日本で相場続落

国内鉄スクラップ相場の「東高西低」が解消する動きとなっている。今年に入り、関東や東北、新潟の価格が高止まりし、様子見商状を続けた東日本市場に対し、中部以西では値下げが先行して進んだため、東日本相場が高値、中部以西が安値の「東高西低」の相場を形成してきた。しかし、ここへきて東日本電炉の値下げ改定が続いたことから、東西の価格差が狭くなってきている。

東京製鉄の購入価格は、宇都宮工場が26,000円(特級)を維持しており、田原24,500円、九州24,000円、岡山23,500円、高松23,000円に対して高値のままだが、周辺相場が下落しており、近く宇都宮工場も調整下げとなる見通しだ。

新関西製鉄 星田工場を4月より一時休止 堺工場に製鋼集約化

新関西製鉄(本社=大阪府堺市堺区塩浜町、田邊寛隆社長)は星田工場(大阪府交野市、工場敷地面積11万5,000㎡)の製鋼工場を4月1日から一時休止することを発表した。同社の製鋼工場は堺工場(工場敷地7万2,000㎡)のみに集約化し、星田工場は従来通り、製品の圧延を継続する事となる。

【関東地区】粗鋼生産の下方修正で電炉筋の値下げ改定続く

関東市場では、電炉筋の値下げ改定が続いており、鉄スクラップ相場はジリ安の展開が続いている。前週は船送り予定が集中し船積み量が増加したものの、これは下支え材料とはならず、電炉筋の入荷が好調さを維持したため値下げが散発した。H2炉前実勢価格は23,500~4,500円中心、高値25,000~6,000円見当でジリ安。H2浜値は23,000~3,500円中心となり、船送りが集中した前週末に比べると高値が切り下がる動きとなっている。

【東海地区】メーカーは4週連続で様子見スタート 弱気感はある

名古屋地区の電炉メーカーは、2月第4週も購入価格を据え置き、様子見でスタートした。このため、域内の鉄スクラップ市況は4週連続で横すべりの格好となっている。H2炉前実勢価格は24,000~4,500円中心。発生は全般に低調で、業者ヤードの入荷は振わず在庫薄にあるため、需給関係はやや改善の方向にあると見られている。ただ、海外市況の軟調から輸出が依然として環境難にあるなど、需給関係に引締まり感は見られない。

【関西地区】市況は弱含み様子見 輸出価格との乖離があり先安不安残る

大阪地区の鉄スクラップ市況は、弱含み様子見で推移している。足元、需給面での大きな崩れはないものの、2月第4週から荷動きが上向きやすい月末環境に入ることに加え、輸出価格との乖離が生じているため、先安不安は依然として残る格好にある。H2炉前実勢価格は24,500~5,000円、一部高値25,500円。姫路地区のH2炉前実勢価格は23,000~3,500円。同地区では3週間以上も変動がない状態が続いている。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、2月24日午前時点のもの)

行事予定

■ 3月の主な予定



3月5日(木)

・ 東北ブロック会議

3月17日(火)

・ 第12回 広報部会

3月25日(水)

・ 産構審・中環審 第38回 合同会議

お知らせ

■ 会員数(2015年2月時点)

総数 637社 / 会員 609社、賛助会員 28社

■ 新規ご入会者のご紹介(2015年2月ご入会)



沖縄県宮古島市
「合同会社 福来多」様

■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年2月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

編集後記

今年度最後の自動車リサイクル士制度認定講習会が2月4日の中国・四国ブロックにて行われました。これで平成26年度分の講習会はすべてを予定通り終えることができました。関係者、スタッフの皆様におかれましては大変お疲れ様でした。▼今号では講習会における受講者からのアンケート結果を二面に掲載させて頂きました。皆様からの率直で厳しいご意見はまさに天の声そのものであり、いまさらながら課題の多さに気付かされます。しかしここは先駆者の苦しみ、謹厳に受け止めこれらの課題の改善に取り組むことによって、より緻密なものへと進化していくに違いありません。▼2月17日に催された産構審・中環審合同会議において、座長より自動車リサイクル法の有用性が結論付けられ、そのための教育が必要といったコメントを頂戴したとの報告を受けました。その役割を担うのは、まさに「自動車リサイクル士制度認定講習会」であろうと思われます。▼時節到来。いままさに自動車リサイクル士制度を含め、日本の自動車リサイクルを確立する時節に差し掛かったのかもしれない。

(広報部会 部会長 永田 則男)